

べつかい 議会だより

第100号

2022年2月



創刊号から表紙デザインを振り返る

特集

「議会だより」100号発行までの歩み ... 2

教員の資質能力のさらなる向上を求め	4
コロナワクチン3回目集団接種始まる	5
プレミアム付商品券事業の課題を調査	6
コロナ時代の新しい意見交換のカタチ	7
一般質問(田村、中村、横田、外山、宮越、木嶋、瀧川の7議員)	8
定例会・臨時会のまとめ	15
議会のうごき	16

シリーズ 町民に聞きました 議会だより100号記念特別記事16



北海道別海町議会

「議会だより」100号発行までの歩み

議会だよりの創刊号から今までの歴史をひもといてみました。



2022. 1. 1 道の駅おだいとうにて

平成9年5月1日の創刊号発行の前に、平成8年9月の定例会で、「議会広報特別委員会」を6名の委員で設置しています。

その後、平成8年11月21日と平成9年2月1日に臨時号が2回発行されました。

これは、正式広報発行のための研修とトレーニングとして発行しました。

主な内容は、別海町にとって重要な決断をする「米軍海兵隊矢臼別演習場移転問題」に係る特別委員会の中間報告と、賛成多数で可決された「県道104号線越え実弾射撃訓練の分散実施の受け入れに関する決議」でした。

8ページ構成ですが、創刊号の発行に向けた意気込みを感じさせる内容でした。

創刊号発行当時は、24名の議員の中から6名が議会広報特別委員会委員に選出され、以来、先人の広報編集の技と伝統が引き継がれ、現在に至っています。

平成16年8月1日発行の30号から「べっかい町議会だより」を「べっかい議会だより」に名称を変更しています。

また、平成27年6月1日の臨時号から、議会だよりの編集を「広報特別委員会」から「広報・広聴常任委員会」として新たに出発することになりました。

別海町の規範である自治基本条例には情報の共有化が明確に位置づけられており、議会においても住民の皆さんへの情報発信や情報共有が必要

になります。

そのためには、議会を身近なものと考えていただけるよう工夫し、誰でも読める、読みやすい「議会だより」を目指していきます。

また、全議員と協力し、町民の皆さんの声を町政や議員活動に生かすため、さらなる工夫を重ね、参加しやすい地域めぐり懇談会や意見交換会を開催できるよう調査や研究をしています。

創刊号から25年間、主に年4回の定例会の内容をできるだけわかりやすく町民の皆さんへお伝えすることを使命に、2月、5月、8月、11月に発行している議会だよりも、今回で100号となりました。

平成14年には、初めて北海道町村議会広報コンクールで入選を受賞以来、4回の「入選」、3回の「特選」、平成29年には町村議会広報全国コンクールで「表紙写真賞」銀賞を受賞しました。

最近の受賞では、令和2年

6月16日に北海道町村議会広報コンクールで、令和2年2月1日発行の議会だより92号が「特選」を受賞しました。12年ぶり3回目の受賞です。

読者がページをめくりやすいよう、カラーの使い方、印刷の技術、字体、記事の配置など工夫してきたことが評価されました。

広報・広聴常任委員会もコンクールで受賞することは、口頃の議会だよりの編集に力が入ります。

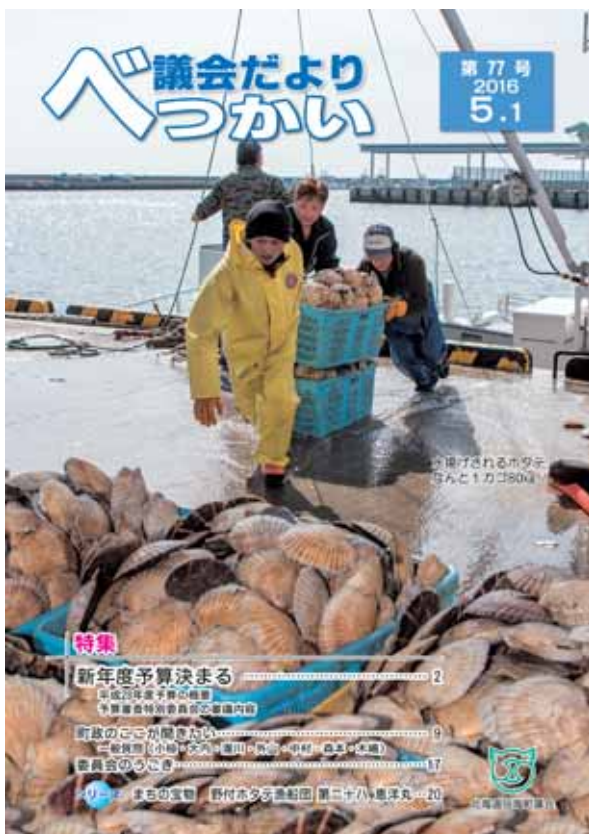
また、取材に協力していただいた方や記事を書いていただいた方々のお陰だと思っています。

これからも、議会での出来事をわかりやすくお伝えしていきたいと思っています。

令和2年北海道町村議会広報コンクール特選を受賞



平成29年町村議会広報全国コンクール表紙写真賞を受賞



総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 木嶋 悦寛 副委員長 佐藤 初雄 委員 小林 敏之・大内 省吾・横田 保江

教員の資質能力のさらなる向上を求め 養成段階から研修の充実を図られる

第3回定例会以降に取り組んだ主な調査は次のとおりです。

- 新型コロナウイルス感染症対策
 - 地域おこし協力隊の推進と活動（現地調査含む）
 - 防災対策の推進（コミュニティエフエム整備について）
 - コミュニティ活動の推進
 - 別海高等学校教育支援事業
 - 生涯学習センター建設の進捗（現地調査含む）
 - 教師力向上の取り組み
- 町が今年度予定している事業を中心に、課題となる案件を調査対象としました。

新型コロナウイルス感染症対策

9月15日以降、5名の感染者が町内で発生するも、10月17日の1人を最後に町内での

感染者は確認されていません。（12月16日現在）

緊急事態宣言は10月末で全て解除となりましたが、諸外国における新たな変異株オミクロン株の急激な感染拡大には注意を要することから、引き続き基本的な感染対策の徹底が求められています。

地域おこし協力隊の推進

これまでに7名の隊員の受け入れを行い、現在4名が、農業・観光・移住分野において活動をされています。支援体制の確立などミスマッチを防ぎ、有意義な活動につながるものが重要であるとされます。

今後は、他部署での隊員受け入れも視野に、本制度の一層の推進が重要であることが

確認されました。

YouTubeの「べっかい移住ちゃんねる」でも紹介されていた移住お試し住宅が10月末に完成したことから、現地調査も行われました。



元職員住宅を全面改装し、来年度から利用される予定の移住お試し住宅

教師力向上の取り組み

児童生徒の資質能力を育成するためには、教員自身の資質能力向上が重要です。

北海道教育委員会では、国から「教育育成指標」の策定が義務付けられ、教員の養成からベテラン段階までのきめ

細やかな育成指標が示されました。

町教育委員会からもコミュニティスクールの推進により強化される部分や、これまで先進地での研修と融合させ、さらに新たな先進地での有効な研修を組み合わせ、深化させる取り組みが示されました。

生涯学習センター建設

今年4月のプレオープンを目指し、建設が進められている生涯学習センター「みなく」は、建築主体工事がほぼ完了したことから、現地を確認しました。



メインホールのステージから客席側を臨む

福祉医療常任委員会の活動報告

担当所管 福祉部・別海病院など 委員長 今西 和雄 副委員長 外山 浩司 委員 戸田 憲悦・瀧川 榮子・宮越 正人

コロナワクチン3回目 集団接種始まる

対象者は18歳以上、2回目接種から8か月経過者（延べ人数1万2千人）で医療従事者、高齢者、基礎疾患を有する方の順に接種します。

接種券はワクチン供給状況に応じて順次発送します。

接種会場は町立別海病院で無料送迎バスを運行します。

予約方法はコールセンターに委託しますが、状況に応じて町保健センターでも受け付けます。

使用ワクチンはファイザー製が供給されますが、今後モデルナ製も追加接種への使用が承認される見込みですので、国からの供給状況を基に周知します。

接種期間、年齢など議論最中の事もあり、国の接種方針に準じて病院と連携し実施します。

子育て世帯臨時特別給付金の支給

0歳から18歳を対象に、所得が児童手当所得制限限度額未満の保護者に10万円を支給します。

詳しくは、町福祉部福祉課より案内があります。

国の方針が二転三転する中、町は利用者のニーズや利便性を考慮し、10万円を現金一括で年度内に支給します。

町し尿処理場を現地調査

昭和55年3月に竣工し、現在41年経過しています。

下水道が未整備地区のし尿・浄化槽汚泥・家庭排水を処理する施設です。

町民約5千800人が利用しており、安定稼働させるため



別海町し尿処理場の現地視察

町立別海病院の経営状況

年度当初の病院事業会計予算実施計画の収入で、一般会計より補助金※1・負担金※2の繰入れを計上しています。

めに第7次町総合計画に基づき更新・整備を行っています。いずれ施設本体の更新も必要となりますが、まだ計画・方針は立てていないと報告がありました。

下水道、し尿処理場一本化の可能性も探り、近隣自治体への現地調査も視野に、継続調査を行っていきます。

※1 補助金
医師・看護師等研究研修費
院内保育所に係る経費、医師派遣経費など

※2 負担金
不採算地区、小児医療、リハビリ、保健衛生行政、企業債利子に要する経費、西春別・尾代沼診療所の不足分経費など

東部地区の介護施設整備状況

また、交付税措置もされていますが、町民が安心して診療を受けるためにも、将来にわたって安定した町立病院の経営状況が確保されるよう、継続調査を行っていきます。

町は東部地区に通所・訪問・宿泊サービスが提供できる事業所とサロンの建設を考えています。公募で事業者を募ってききましたが厳しい状況です。引き続き、実現に向け関係部署や事業者と協議していると報告がありました。委員会も継続して調査します。

産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 松壽 孝雄 副委員長 小椋 哲也 委員 中村 忠士・松原 政勝・田村 秀男

プレミアム付商品券事業の課題を調査

新型コロナウイルス感染症の影響に対する経済対策として、プレミアム付商品券事業が実施されました。

第1弾の売れ行きが悪かったため、商工会と協議し第2弾で一人10冊までとして販売した結果、即日完売となり、町民の皆様方から買えなかったという不満の声が多数寄せられました。

委員会として、販売方法や周知方法などを調査しました。今後は、経済対策を第一議としながらも販売方法や周知方法などをしっかり検証していくと確認しました。

中小企業等経営持続化補助金、べっかい宿泊割事業についても調査しました。べっかい宿泊割の利用率が低く、PRが必要と意見しました。

水産系副産物再資源化施設の運営

有害なカドミウムを微量含むホタテウロは、12月期から受け入れしないこととなりました。

発酵させたホタテのウロの不良在庫が大量に累積し、今年度から計画的に焼却処分する予定ですが、1億円以上の多額な費用がかかるため処分方法などを継続調査します。

国営土地改良施設維持管理事業(太陽光発電施設)

南部地区20施設、西部地区53施設、北部地区14施設の合計87の太陽光発電施設があります。

売電先への出力制御装置が必要となり、その設置に1億

5千万円の費用がかかります。設置農家への維持管理交付金を大幅に減少して対応することです。

下水道事業の法適化

今まで特別会計で事業を行ってきましたが、令和2年度から令和3年度の2カ年度を移行作業期間と位置付け、法適化に向けた会計システムの導入および固定資産台帳などの整備移行作業に向けた準備を進め、令和4年度から適用するため新しい条例を制定しました。

このことにより、経営状況、財務状況の明確化と説明責任の履行、健全な上下水道運営に向けた取組の推進、職員の経営意識の向上を目指しています。

空き家対策

適切な管理が行われていない空家などが増加し、防災、

防犯、景観、建物の安全性など地域住民の生命、身体、財産の保護、生活環境の保全、空家などの活用のため対応が必要になり、法律に基づき不良空家などの除却費の一部を補助しています。(限度額100万円)

除雪について

令和3年度の除排雪実施計画では、町道706路線1・025㌦、生乳搬出路68戸、要保護世帯81戸、公共施設172箇所を町有車12台、民有車79台の合計91台で実施します。



産業と生活のライフラインを守る除雪作業

広報・広聴常任委員会の活動報告

委員長 小椋 哲也 副委員長 田村 秀男 委員 戸田 憲悦・瀧川 榮子・大内 省吾・横田 保江・宮越 正人

コロナ時代の 新しい意見交換のカタチ

コロナ時代にも対応したオンライン形式での地域めぐり懇談会を試験的に開催し、町民との意見交換を行いました。

11月25日にビデオ会議の仕組みを活用した地域めぐり懇談会を開催しました。

テーマを「別海町におけるコロナ禍の今とこれから」とし、教育、福祉医療、商工業について意見交換を行いました。

初めての試みという事で、広く誰でも参加できる形式にはせず、各ジャンルに関係する方にお声掛けして、議員含めて10人程度の規模で実施しました。

意見交換の様子はYouTubeで生配信し、コメントを通じて意見をいただく仕組みとしました。

GIGAスクール構想 とコロナ禍の教育

児童生徒の保護者の方にお話を伺いました。

児童生徒にタブレットが一人1台整備され、リモートでの遠隔授業など、感染症対策による休校時への対応体制が整ってきました。

しかし、子どもや教師側も新しい技術に慣れていないこともあり、機器の運用に不安を持っている保護者が多いとのことでした。

また、せっかく導入した機器や仕組みなので、日常から積極的に活用されていくことを期待しているようです。

コロナ禍で福祉施設と 病院はどう変わった

グループホームすらんの職員にお話を伺いました。

感染症対策自体はインフルエンザやノロウイルスなど、以前から行っていました。

しかし、コロナ対策はそれらと比較しても、とても厳しい対策が必要になっているため、入所者とその家族の理解を深めてもらい、力を合わせて取り組んでいます。

もし職員に感染者が出た場合、人員不足をどうするかが大きな課題となっているようです。

別海町の地域経済はコロナ 禍をどう乗り切るか

飲食店事業者と商工会にお話を伺いました。

長引くコロナ禍により、お客様の動態は大きく変化しています。

さまざまな制限がある期間は、国や道、町独自の支援があり、なんとかやりくりしてきました。

しかし、制限が解除され(11

月25日現在) 支援は終わりましたが、まだ自粛の影響が強く残っている業態はとても苦しい状況にあります。

今後感染の状況により、不安定な経営になることが予想されるため、とても大きな不安を抱え続けています。

地元の状況に合わせた、町のきめ細かな対策を期待します。

今後は、コロナの状況に対応しながら、対面での意見交換を基本としつつも、必要に応じてオンライン形式や生配信などの新しい取り組みも積極的に取り入れて広聴活動を行っていきます。



LINEを使ったオンライン意見交換の様子



議員7人による一般質問

質問 介護従事職員の人材確保は 大丈夫なのか



田村秀男議員

質問 介護保険事業計画では、団塊の世代が全員75歳以上になる2025年に要介護者が740人と推計しているが、介護職員不足を解消する施策として、潜在介護福祉士や外国人人材の活用、ジョブライター制度などを提案するが。

答弁 令和元年から実施している新規就労、復職支援の補助金を継続していき、外国人労働者の雇用や本人が希望すれば復職できるジョブライター制度の活用も必要に応じて各事業所に活用していただく。

回答の要約

資格取得に対する助成、新規および復職就労継続に対する補助を継続していくことが必要と考えている。

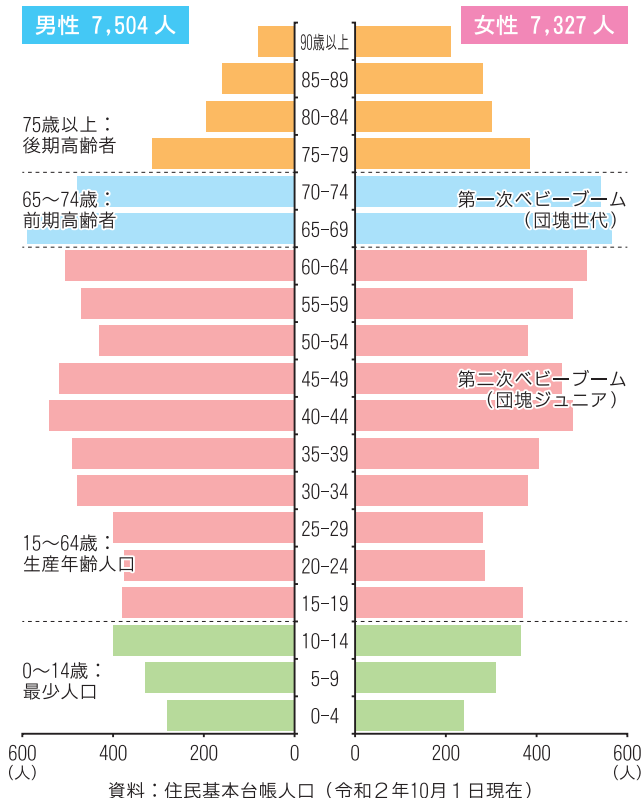
質問 認知症のサポーターや権利擁護のための市民後見人の現状と対策、認知症ケアパスの策定状況は。

答弁 平成18年から認知症サポーター養成講座を開始し、これまで580名が受講し登録している。

市民後見人については、20名が登録されている。

認知症の容態に応じ、相談先や、いつどこで、どのような医療・介護サービスを受ければいいのかをあらかじめ標準的に示した「認知症ケアパス」については作成中である。

別海町の人口ピラミッド



質問 介護士または看護師が夜間も含めて24時間常駐し、安心感が高いサービスを受けられる「特定施設」の設置構想は。

答弁 次期介護保険事業計画策定時に慎重に検討する。

質問 災害時の避難行動支援者支援制度について、地域の中で顔の見える助け合い「互助」、自分で災害に備える「自助」、安全かつ安心して暮らせる地域づくりを目指して、災

害時に行政が行う「公助」の支援体制は。

答弁 各地域の町内会や民生委員の皆さんに協力をいただき、避難行動において災害発生時の避難支援フロッチャートを掲示している。

福祉避難施設の拡充については、圏域ごとの整備や新しく建設を計画している施設などの活用を考え、災害や新規感染症対策を含めて検討していく。



詳細はこちらからご覧になれます

議員7人による一般質問

質問 沖縄米海兵隊移転訓練、当初の説明と食い違っている



中村忠士議員

回答の要約

相対的に見て、当初の約束から逸脱していない。

質問

10月の沖縄米海兵隊移転訓練は、滞在期間30日、人員500人、車両100両で最大規模だった。

当初の説明より大幅に拡大している。

答弁

相対的に見て、当初の約束から逸脱したものではない。

質問

一つ一つ確認する。滞在期間について、当初は「10日以下の訓練、前後に展開撤収期間として各3、4日」と町民に説明していた。

これを事実と認識しているか。

答弁

当時の防衛省から、そのような内容での回答を受けたと認識している。

質問

人員についてだが、「最大で300名強、支援部隊として60〜70名程度だ」と説明していた。これは事実か。

答弁

当時、受け入れの際に防衛省に対し、町の方で条件を提示し、その回答の中に示されている人数だと理解している。

質問

受け入れ前の町民説明会での町の文書には「沖縄で夜間訓練はやっていない」と書

いてあるが、事実か。

答弁

沖縄での射撃訓練では夜間はやっていなかった。

今後も「オスプレイ受け入れられない」の姿勢を

質問

演習場周辺四町の町長が「オスプレイ訓練は受け入れることはできない」としつつ、訓練を行う場合は、訓練内容の公表、低空飛行は行わないなど5点の要請を防衛局に行った。

要請に沿った訓練となったか。

答弁

おおむね配慮された訓練であった。しかし、もう少し細やかな情報提供ができなかったかという思いはある。また、飛行経路の情報は提供されず、大変遺憾である。

質問

オスプレイは開発段階からの事故の発生や騒音振動などに対する住民の不安は

払拭されていない。

直近4年間で緊急着陸を余儀なくされる事態を、日本国内で少なくとも12回起こしている。

要請書に明記されているように「オスプレイ訓練は受け入れることはできない」という姿勢を、今後とも明確に示していく必要があるのではないか。

答弁

住民の不安が払拭できていない状況にある限りは、今回、訓練に対して要請したのと同様の形で要請を行っていく。



矢野別演習場で初めて行われたオスプレイの飛行訓練

質問を
終えて

米海兵隊の滞在日数も人員規模も当初の町の説明とずれてきていることが明瞭となりました



議員7人による一般質問

質問 早期子宮頸がん予防ワクチン接種と安全性などの情報提供は



横田保江議員

質問 別海町の現在の子宮頸がん予防ワクチン接種の状況は。

答弁 以前の国の方針に基づき、個別通知など積極的な勧奨は行っていないこともあり、過去5年間で、平成29年に1名の接種実績があり、令和3年度の接種実績はない。

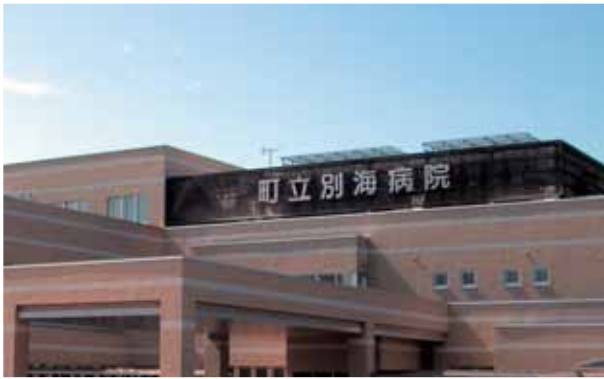
質問 厚生労働省は、接種の『積極的勧奨』を再開するよう自治体へ通知しており、準備が整い次第、来年4月を待たず実施も可能とある。子宮頸がん予防ワクチン接種の安全性・有効性などに関

回答の要約

早期実施に向け取り組み、ワクチン接種の検討・判断をするための情報提供と接種後の相談・診療体制の確保を。

する情報提供を丁寧に伝えていき、町として早期実施を。

答弁 令和4年度内に13歳になる女子への個別勧奨に加



ワクチン接種会場となる町立別海病院

え、これまで個別勧奨を受けていなかった対象者への接種計画や、ワクチン接種について検討・判断するために必要な情報提供を、また、接種後に体調の変化が生じた際の相談・診療体制の確保など準備を整える必要がある。

実施時期は令和4年4月からの予定で、できる限り早期実施に向け取り組む。

質問 子宮頸がんワクチン接種後に症状が生じた場合に、寄り添った相談ができるよう対策を整えていくべきでは。

答弁 国や道、また当町では、相談窓口を設置し、医療機関などと連携し相談体制に対応する。

改めて、相談窓口先の周知徹底を図り、接種後に体調の変化がある時には、相談内容に応じ、医療機関や保健所、学校とも連携してきめ細かな対応に努めていく。

3歳児健診における屈折検査の導入について

質問 3歳児健診で早期発見することが大事、早く見つかるほど回復も早く、3歳から6歳までの検査が重要。町として早期に屈折検査の導入を考えていくべきでは。

答弁 屈折検査※機器の導入で、屈折の種類や程度・斜視の測定が可能で早期発見につながる。

国から自治体への屈折検査機器導入に対する支援もあり、病院とも協議し検討していく。

※屈折検査

焦点が網膜上に正しく合っているかどうかを調べる検査。3歳児健診の際に実施することとで、弱視などの目の異常の発見率が向上する。





詳細はこちらからご覧になれます

議員7人による一般質問

質問 村営軌道を走っていた 質 自走客車を動くようにできないか



外山浩司議員

質問

標津町の有志が、機関車を図書館前から旧標津駅構内に移動し、動くようにした結果、多くの見学者が訪れている。

奥行臼史跡公園の計画が進められているが、旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所に展示されている自走客車を動くようにできないか。

答弁

多額の費用が見込まれるが、鉄道ファンからの声もある。誘客手段の一つとして観光客の増加につなげることも期待できる。整備計画の中で検討していく。

回答の要約

観光客の増員などの一つにつながるので検討をしていく。

質問

軌道風蓮線奥行臼停留所には、転車台の外型が残っている。復元することはできないか。

また、上風連市街地と開南地区にあった転車台の説明看板の設置ができないか。

答弁

奥行臼停留所敷地内にある転車台は、設計図が残っており整備計画で検討していく。

上風連市街地に転車台は残っているが、車両の通行などの支障があり難しい。

開南地区の転車台は、地域住民の願いもあり、別海町歴史文化遺産への認定に向け準備を進めている。認定され次第、解説看板を設置したい。

備を進めている。認定され次第、解説看板を設置したい。

質問

奥行臼散策デーでは、トロッコの試乗があり、親子連れなどに人気がある。

日曜日や夏休みに体験ができないか。

答弁

学校などから希望があれば、見学学習の一環として試乗できる。来年度は、夏休み中にエンジン付きトロッコの乗車イベントを計画している。

質問

旧奥行臼駅通所付近



奥行臼に残っている転車台とディーゼル機関車

は「桜の名所」として多くの人が訪れていた。

桜の植樹ができないか。

答弁

町民の憩いの場として、桜を中心に植樹を検討していく。

北京オリンピック選手への支援策について

質問

前回の平昌オリンピックの時と違い、コロナ禍で企業からの支援が難しいと思われる。

支援策およびパブリックビューイングなどの応援体制は。

答弁

コロナ禍による経済の低迷などから寄付者の人数や額の減少を後援会でも心配している。前回と同じになるよう物心両面で支援に取り組んでいきたい。

パブリックビューイングを実施したいと考えているが、第6波の感染拡大にも配慮しながら慎重に準備をしていく。

別海の歴史文化遺産が、地域の再発見と観光客の増加につながりますように。



議員7人による一般質問

質問 漁業者の将来的不安を払拭する 増殖事業の支援について



宮越正人議員

質問 サケ漁の不漁が続いている中、根室南部と北部の海区で、大きな漁獲格差が生まれている。

資源管理型のサケ漁には、町においても積極的に支援し、地域振興に寄与すべきだが。

答弁 これまでの対策としては、河川での減耗リスクを回避する目的で、漁港内での海中二次飼育などに支援をしている。

サケの増殖事業は、根室管内増協が役割を担っているが、サケの漁獲高に合わせた漁業者が支払う負担金が減少して、増殖事業が停滞すれば、さら

回答の要約

増殖事業が停滞してしまうとサケの回帰が見込めなくなり、漁業者が負担する事業資金が減少する。町としてしっかり支援していく。

にサケの回帰が見込めなくなるため、今後これらサケ資源の回復対策が重要だと考えている。

漁獲尾数については、根室北部が123・6%、根室南部が74%と大きな格差があるのは承知しているが、町に是正対策はないものの、根室管内各自治体や漁業協同組合とも協議しながら有効な支援を検討していく。

新たな増殖事業を模索する後継者の取組について

質問 全国的に試験養殖が行われている「陸のウニ」に



別海町の増殖施設は老朽化している！（写真：標津町ふ化場）

挑戦しようと、3年前から自己資金のみで奮闘している漁業後継者がいるが、その取組をどのように感じるか。

また、積極的な支援を前提とした考えはあるか。

答弁 自ら挑戦することは重要でありその取り組みを尊重したいと考えている。

尾岱沼地区には、ウニ二種育苗センターを設置し、稚ウニの放流を継続しているが、野付沖では、ウニの餌となる昆布の育成海域が少なく、うまく生産へと結びついていない。

いため、育成した稚ウニを他町へ販売する方向に変更している。

今般の新たな栽培漁業の取り組みには、町としても支援することが必要と思うが、地元漁協や関連する水産試験場、水産技術普及事業所などと共同で取り組み、栽培魚種として位置づけすることが重要と考える。

また、原因が究明されていない秋サケ不漁の中で、ウニを含む新たな魚種の増殖は重要であり、関係機関と協議しながらこの地域にあった資源となるよう町としても支援を検討したい。



サケの採卵作業（標津町）

質問を終えて

酪農と水産の恒久的な発展は、商工を含む経済振興に係る重要な問題。今後も注視していきたい。



詳細はこちらからご覧になれます

議員7人による一般質問

質問 プレミアム付き商品券の販売に公平性に 配慮を欠く取り組みがあったのでは



木嶋悦寛議員

回答の要約

不適切な部分を検証し、次に行う場合には、できるだけ多くの町民に買ってもらえるよう考えたい。しっかりと反省し、次に生かしていきたい。

質問 今回のプレミアム付き商品券事業は、今後の経済対策の指標として早急に検証を行い、次に備えることが必要だと考えるが。

答弁 当然ながらPDCAサイクルによる評価および改善を実施する必要があるが、来年2月末の事業完了後において検証を行う予定だ。

質問 後半の販売方法に、公平性に配慮を欠く取り組みがあったと考えるが、事業主体である町商工会との連携は。

答弁 本事業実施にあたり、

町と商工会で行った合同アンケートの結果を基に、商工会とは影響を受けた小売業および飲食業などへの経済対策事業として、上乗せ率の設定や飲食応援券を加えるなど、内容を協議した中で取り組んだ。

質問 改めて聞くが、プレミアム付き商品券事業の意義と目的は何か。

答弁 中小企業を助ける。もう一つは、低所得の人たちの購買を助ける福祉の一面もあると思っている。

今回は、販売方法の不適切な部分もしっかり検証して、

次に行う場合には、できるだけ多くの町民に買ってもらえるよう、そして低所得者に対する支援という複合的な効果を目指して事業を進めていくべきだと考えている。しっかりと反省し、次に生かしていきたい。

質問 町が事業主体となつて公平性を担保する取り組み方が必要だと考えるが。

答弁 商工会にとって、会員の経営を助けるとともに、町民福祉の向上に協力していく考え方を持ってもらうことも大切だと、私は商工会の幹部としっかり話している。

町が直接やれば良いというのは、確かにそれも一つの案だが、そういう方法が町民に納得してもらえるのか、人的な配慮や専門的知識のこともあり、その部分も含めしっかりと協議していく。

質問 新型コロナウイルス

感染症の影響だけでなく、地域経済の振興・活性化は急務。中小企業振興策の点検と必要な施策の中長期的方向性を出すことが本質的で重要な取り組みだ。そこで大切なのは「対話・専門性・連携」の3点だと考えるが。

答弁 当町は、全国第3位、668億円の農業産出額を誇っており、中長期的経済施策も第7次総合計画に基づき道内他自治体に先んじた取り組みをしている。

今後は経済情勢を注視しながら、柔軟性を持って各種事業に取り組んでいきたい。ご指摘の3点は私も大変重要なものと認識している。



町ではさまざまな中小企業対策が取り組まれている

持続可能な地域経済の創生。対話と連携を鍵とした重要性の共有が必要となる。

質問を終えて



議員7人による一般質問

質問 貸付型奨学金と 給付型奨学金について



瀧川 榮子 議員

回答の要約

貸付型奨学金はUターンを強く意識した制度ではない。給付型奨学金は卒業後5年以上当町の医療機関などに就職する義務がある。

質問 町には貸付型奨学金と給付型奨学金がある。貸付型奨学金を利用した若者が、町に戻り就職している現状は。

答弁 平成28年度から令和元年度までは毎年1人。令和2年および3年度は各2人となっている。

質問 貸付型奨学金の目的の中には、別海に帰ってきてほしいとの思いが込められていると考えるが。

答弁 給付型奨学金とは異なり、貸付型はUターンを強く意識した制度ではない。

質問 コロナ禍で、学ぶ事も働く事も困難な若者が増えている。奨学金返済が厳しい可能性があると思うが。

答弁 学校卒業後1年据置きとし、5年間均等償還としている。償還困難は個別に対応している。

質問 羅臼町では貸付型奨学金を利用した若者が、自治体に就職した場合、奨学金の返還支援制度がある。返還免除でなくとも、返還支援は帰町への大きな引力になる。

答弁 返還支援の方向への考えは。

質問 羅臼町の奨学金支援事業は、さまざまな奨学金を対象に、人材確保と町内定住を目的としている。

答弁 町の経済的理由による支援が目的の奨学金貸付制度と比較は難しい。

質問 給付型奨学金を利用した場合、全員が就職できる状況にあるか。

答弁 受け入れできなかった場合の返還利率の違いは。

質問 支給を受けた奨学生は、卒業後5年以上、当町の公的機関、町内の民間保険医療機関および介護保険事業所への就職義務を有している。

答弁 さまざまな状況により、奨学金受給者の卒業時点の該当職種への公募を必ずしも補償しているものではないことなど説明し、理解していただいて申請を受けている。

質問 受け入れできなかった場合は、支給した奨学金の元金のみ返還してもらうことになる。

質問 給付型奨学金は自己都合で返還することになった場合、年率7・5%と高い。低くする考えは。

答弁 返還は義務を履行しない場合の対応であり、利子相当額分についても違約金的な要素を含んでおり、一定程度の確保は必要と考えている。

給付型奨学金	対象となる職種	支給額
	医師	200,000円以内
	歯科医師、保健師、助産師、看護師、医療関係技術者	100,000円以内
貸付型奨学金	准看護師、介護福祉士	60,000円以内
	貸付対象の要件	貸付限度額
	特殊な機能教育、専門教育で適当と認められる学校に在学していること	30,000円
貸付型奨学金	医科大学（歯科を含む）又は看護学校に在学し将来本町で医療業務に従事する者	50,000円

(奨学生1名 月額単位)

質問を
終えて

貸付型奨学金の利用者が別海に就職した場合、職種に関係なく支援がほしい。

定例会・臨時会のまとめ

令和3年第4回定例会会議結果報告 好調なふるさと応援基金 条例の一部改正など審議

第4回定例会の概要

12月13日に招集され、会期を12月17日までの5日間に決定。

1日目 12月13日

町長から行政報告、副町長から提出案件の概要説明と、各所管部課長から議案の内容説明が行われました。

町長からの行政報告

- 令和3年度の除雪業務契約の完了報告
- 昨年コロナ対策で中止された成人式の開催決定
- 産業の動向
- ふるさと納税の大幅増に伴う返礼品などの状況説明
- 西春別駅前歯科診療所の歯科医師の状況
- 日米共同訓練の状況
- 議案などの内容説明
- 各会計補正予算5件を予算決算審査特別委員会に付託

- 下水道等事業設置条例制定を産業建設常任委員会に付託

- 条例の一部改正7件

- 工事請負契約の締結2件

- 公の施設に係る指定管理者の指定3件

- 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更

- 別海町教育委員会委員の任命

- 専決処分(工事)の報告

2日目 12月14日

- 5名の議員が一般質問。

3日目 12月15日

- 2名の議員が一般質問。本会議を休会し、予算決算審査特別委員会を開催。

- 広報広聴常任委員会を開催。

- 予算に関する主な質疑

- ふるさと応援寄附金・制度

推進事業

- (西原議員・中村議員)

- 臨時特別給付金給付事業

- (中村議員)

- 新型コロナウイルスワクチン追加接種事業

- (中村議員)

- 奨学資金貸付事業経費

- (中村議員)

- 外国青年招致事業

- (中村議員)

4日目 12月16日

- 本会議を休会し、3常任委員会を開催。

5日目 12月17日

- 最終日は、産業建設常任委員会および特別委員会付託事件審査結果報告と各議案の討論・採決、追加提出議案の内容説明・質疑・討論・採決が行われ全ての案件が全会一致で可決。

- 松壽議員発議による「地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める意見書」を原案通り可決。

決。
各常任委員会の閉会中の継続調査事件を決定しました。

第6回臨時議会の概要

11月29日に開催され、灯油価格の高騰により高齢者世帯等に対する暖房用燃料費の一部助成を目的にする「福祉灯油助成事業」と「新型コロナウイルスワクチン追加接種事業」に係る接種券印刷・発送経費およびシステム改修費の令和3年度一般会計補正予算を可決。

工事請負契約の一部変更に係る専決処分5件、和解および損害賠償額の決定に係る専決処分1件の報告がありました。



議会だより100号記念特別記事

議会だより100号発行を記念して、初代編集委員である横堀さんに記事を寄稿していただきました。



広報委員会を振り返って
横堀 昭 康

このたび別海町議会広報誌の発行が100号に到達となり、以前に編集に携わった私としても感無量です。

振り返ってみますと、私が議員になった平成7年にはまだ議会広報誌はありませんでした。翌年の6月定例会後の議員会で議会広報誌について、北海道180町村の内、136町村が広報誌を発行しているし、奥根室4町のうち別海町だけ発行していないので、発行の有無について協議してほしいとの提案がありました。そこで2期生が中心となり協議検討の結果、発行することになり「議会広報特別委員会」が設置されました。

私も含め6人の委員でしたが、編集には皆素人でした。幸い天田委員がパソコンに長けていることもあり、彼が編集の中心になり先進地視察に出向いたりして、研修を積んで平成9年5月に創刊号の発行までこぎ着けました。

町によっては議会事務局の職員に誌面作りを委ねているところもありますが、我が町は広報委員自ら記事を要約したり、現地に赴いて取材をしており、それが誇りでもあり、伝統的に現在まで受け継がれています。

私は平成9年の創刊号から平成19年発行の41号までの10年間携わってきました。平成15年から平成19年までは委員長も務めさせてもらい、平成16年8月発行の30号は全道町村議会広報コンクールで特選を受賞することができました。広報委員全員が論議を重ね、レイアウトを変更しながら誤字脱字をチェックし、読み合わせをして作り上げた成果が認められたのです。家へ持ち帰って編集作業をしたこともたびたびありましたが、苦勞した分出来上がった広報誌を見ると達成感も湧き、今では貴重な体験をさせていただいたと思っています。

年4回発行の議会広報誌を心待ちにしている町民もおられると聞きます。現広報委員の皆さん、使命感と誇りをもって、これからも広報誌発行に「尽力」ください。

議会の傍聴の際はマスクを持参ください！

議会の会議は、誰でも傍聴することができますが、コロナウイルス感染症対策のため、発熱がなくマスクを持参される方に限っていますのでご了承ください。

令和4年3月定例会の予定

3月2日(水) 10時～

1日目 本会議(行政執行方針説明、先議議案説明など)
予算決算審査特別委員会

3月3日(木) 10時～

2日目 本会議(先議議案採決、
議案説明・質疑など)

3月4日(金)～6日(日)

休会

3月7日(月)・8日(火) 10時～

6日目・7日目 本会議(一般質問)、常任委員会

3月9日(水)・10日(木) 10時～

8日目・9日目 予算決算審査特別委員会

3月11日(金) 10時～

10日目 本会議(議案討論・採決など)

※議事の内容は、変更することがありますので、議会ホームページをご確認されるか、議会事務局までお問い合わせください。

3月											
	1	2	3	4	5						
6	7	8	9	10	11	12					
13	14	15	16	17	18	19					
20	21	22	23	24	25	26					
27	28	29	30	31							

議会のうごき 9月定例会終了後から12月定例会まで

1 議長、副議長、各議員(委員)の動向について(抜粋)

期 日	内 容	備 考
10月18日	西銘内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)来根に伴う関係団体等との要望・懇談会 (別海町)	議長
10月30日	別海町立別海中央小学校開校100周年記念式典 (別海町)	議長
11月5日	第38回菊と緑の会 in べつかい歓迎式 (別海町)	正副議長
11月25日	地域めぐり懇談会 (別海町)	議員16名
11月29日	別海町優良勤労者表彰式 (別海町)	議長
11月30日	別海町表彰式 (別海町)	正副議長
12月6日	別海町文化・スポーツ功労者表彰式 (別海町)	正副議長

2 一部事務組合・広域連合議会について

期 日	内 容	備 考
12月7日	根室北部消防事務組合議会定例会 (中標津町)	関係議員
	中標津町外2町葬斎組合議会定例会 (中標津町)	
	根室北部廃棄物処理広域連合議会定例会 (中標津町)	

「密閉空間」「密集場所」「密接場面」3つの**密**を避けましょう！